



平成28年度

森林環境教育・木育 活動事例集



はじめに

三重県では、平成 26 年 4 月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。これまでも、三重の森林づくり基本計画に基づき、森林環境教育の機会の増大を図ってきたところですが、この税の大切な取り組みの一つとして、さらに注力して森林環境教育・木育の推進に取り組んでいるところです。

本書は、平成 28 年度に県内の学校などで実施された森林環境教育・木育の活動事例について、学校などから提供いただいた情報をもとに編集したものです。学校などでの今後の取組の際に、本書の事例を参考にいただければ幸いです。

また、この税を活用して、平成 28 年 4 月から津市白山町の三重県林業研究所内に「みえ森づくりサポートセンター」を設置しました。

みえ森づくりサポートセンターでは、森林環境教育・木育活動のコーディネート、指導者の紹介、出前授業など、森林環境教育・木育に取り組んでいただける皆さまのお手伝いをいたします。この事例集に関するお問い合わせを含め、森林環境教育・木育全般のご相談については、この「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

最後に、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 3 月 三重県農林水産部みどり共生推進課

「森林環境教育」とは

「森林内での様々な活動体験等を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深める」
(平成 27 年度森林・林業白書)

「木育」とは

「子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動」
(平成 27 年度森林・林業白書)

「森林環境教育・木育」の取組み方の例

普段の授業や総合学習
遠足やキャンプ、宿泊体験
といった行事など

+

森林の持つ様々な
はたらきについての学習
森林資源（木材など）を
利用した体験活動など

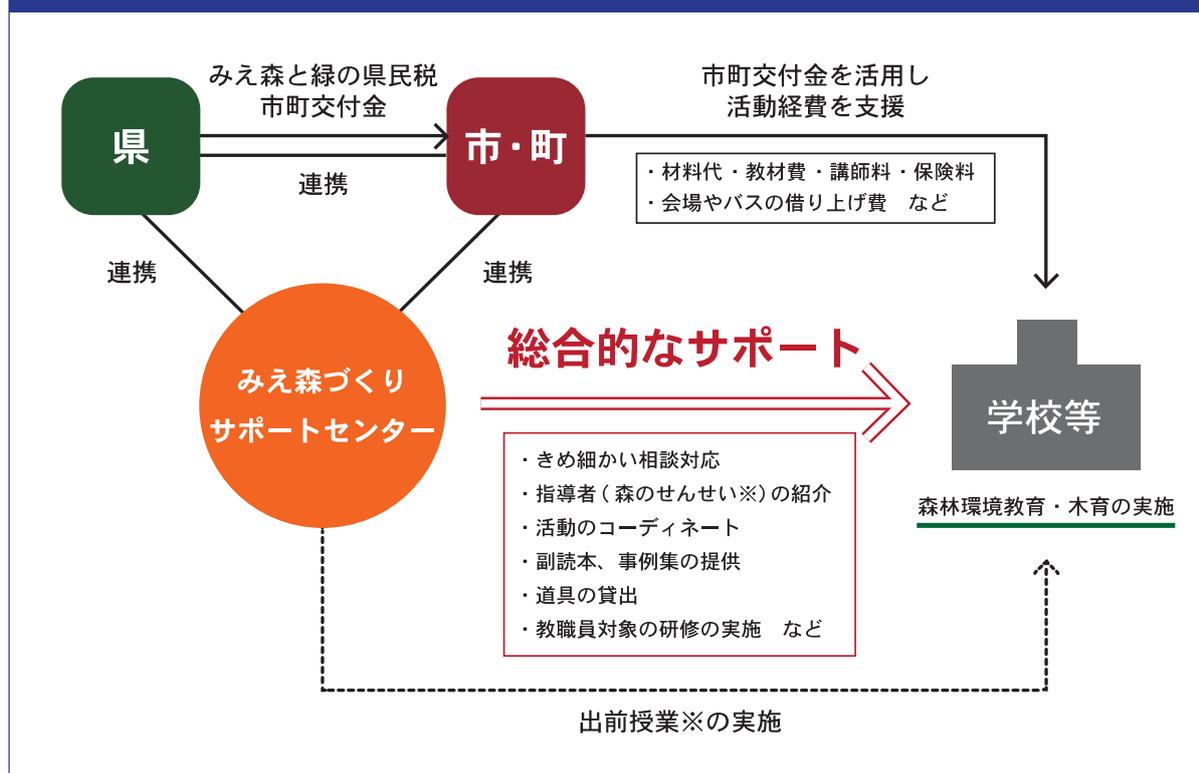
=

森林環境教育
木育

「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育・木育について

「みえ森と緑の県民税」では、市町が地域の実情に応じて創意工夫して税の導入目的に沿った施策を展開できるよう、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、市町が小中学校などでの森林環境教育・木育に活用することができます。

市町交付金を活用した森林環境教育・木育実施の流れ



取組み事例

①学校で実施できる事例

- ・森のはたらきなどについての座学
- ・クラフト体験や木工工作
- ・校庭の樹木の名札付け、自然観察
- ・学校林での林業作業体験 など

②校外で実施できる事例

- ・県民の森や森林公園での森林体験
- ・宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・遠足での森林体験
- ・製材所等への社会見学 など

※森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林環境教育・木育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。情報の一部はホームページで公開しています。

※出前授業

市町交付金事業の対象外となる学校については、サポートセンターが森林環境教育・木育の出前授業に伺います。詳しくはお問合わせください。

※年間10校程度を予定

目 次

1. 『ぬくもり子育て・豊かな森づくり』～木育講座～ 桑名市立長島中部小学校	5
2. 『里山保全活動』～四日市市少年自然の家にて～ 四日市市立小学校10校、中学校4校	6
3. 『木に親しみ、木を楽しもう』～丸太切り、マイ箸作り、木の積木・楽器遊び～ 津市立修成小学校、南立誠小学校、北立誠小学校	7
4. 『年輪を調べよう』～君と木と、どっちが長生き～ 四日市市立常磐西小学校	9
5. 『県産材を使った木製万年カレンダー作り』 津市立栗真小学校	10
6. 『県産材を使ったプランターカバー作り』 津市立栗真小学校・一身田中学校国児分校	11
7. 『林業体験学習』～山を育てる～ 津市立辰水小学校、高宮小学校、長野小学校	12
8. 『木に親しみ、木を楽しもう』～マイ箸作り～ 津市立誠之 ^{せいし} 小学校	13
9. 『樹木観察』～校庭にある樹木(私の木)をもっと知ろう～ 津市立大三 ^{おおみつ} 小学校	14
10. 『樹木観察』～校庭にある樹木を調査しよう～ 松阪市立港小学校	15
11. 『ウッドピア松阪で木にふれる』～木はすごい。木にふれるって楽しい～ 松阪市立機殿 ^{はたどの} 幼稚園、機殿 ^{はたどの} 小学校	16
12. 『学校林生き生き体験学習』 松阪市立大河内 ^{おかわち} 小学校	17
13. 『森林のはたらきについて考えよう！』～不要木を活用したコースター作り体験～ 松阪市立射和 ^{いざわ} 小学校	18
14. 『上流から木にふれるまで』～森林や木はすごい。木にふれるって楽しい～ 松阪市立中原小学校	19
15. 『森林のはたらきや木材利用について考えよう！』～マイ箸作り体験～ 多気町立外城田 ^{とぎだ} 小学校	20

16.	『小学生が創る宮川未来の森』～間伐体験～ 大台町立三瀬谷小学校、宮川小学校	21
17.	『マツの間伐体験』～今一色海岸の再生に向けた活動～ 伊勢市立今一色小学校	23
18.	『樹木観察』～小学校にある樹木について学ぼう！～ 玉城町立外城田小学校	24
19.	『地域の産業「シイタケ栽培」を知ろう』～シイタケの種菌入れの体験を通して～ 大紀町立大紀小学校	25
20.	『森っ子遠足』～どんぐり図鑑とネジキのペンダント作り～ 伊賀市立神戸小学校	26
21.	『学校林わくわくプロジェクト』～間伐・製材所見学、丸太切り・木工体験～ 名張市立薦原小学校	27
22.	『原木市場で競り体験』～伝統を引き継ぐ熊野古道の森～ 尾鷲市立宮之上小学校	29
23.	『尾鷲ヒノキを使ったアオリイカ産卵床作り』～林業と漁業の体験学習～ 尾鷲市立宮之上小学校、三木小学校	30
24.	『山のはたらきを知ろう！』～なぜ山に木を植えるの？～ 紀北町立引本小学校	31
25.	『森林のはたらきを知ろう、県産材を使おう』～マイ箸作り体験～ 津市立一身田中学校	32
26.	『地域の木材を使ったものづくり体験』～ミニ衝立作り～ 津市立一身田中学校	33
27.	『地域の木に親しむ』～竹を使ったスタードーム作り～ 津市立白塚幼稚園	34
28.	『木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう！』 長島中部学童保育所レインボー、放課後児童クラブレインボー駅前	35
29.	『マイ箸作りとLEAF体験』 放課後児童クラブなかよしハッピーキッズ	36
30.	『木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう！』 川越町つばめ児童館	37

01

ぬくもり子育て・豊かな森づくり ～木育講座～

桑名市立長島中部小学校



ねらい

- ・ 県内の森林・林業の現状や課題についての理解を深めるとともに、森林と生活、環境との関わりについて関心を高める
- ・ 子育てや生活空間に県産材を活用することの大切さについて学ぶとともに、木の良さを感じ、木に親しむ

取組内容

桑名市立長島中部小学校の出前授業は、三重県四日市農林事務所が行うみえ出前トーク「木育講座」との共催で小学1年生80名とその保護者の方、教職員の方を対象に行いました。

「木育講座」では、講師から、木育とは何かについてのお話、子育てや暮らしに木材を取り入れる有効性についての解説しました。

その後、出前授業では、「もりぼーる」をはじめとする木の玩具やおもちゃにふれてもらい、木のもつ肌触りや温かさ、香りなどを楽しみました。

出前授業を通じて、県産材に対する正しい理解を育む良い機会になりました。

プログラム概要

内容	木育
時間	1時間30分
場所	小学校多目的室
対象	1年生80人とその保護者、教職員
講師	三重県四日市農林事務所 林業普及指導員 みえ森づくりサポートセンター
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

02

里山保全活動 ～四日市市少年自然の家にて～

四日市市立小学校 10 校、四日市市立中学校 4 校



ねらい

- ・ 里山は人間が利用することで維持され、たくさんの生きものを育ててきたことを理解する
- ・ 伐採作業を実践することで、里山保全の大切さをより深く理解する

取組内容

はじめに、子どもたちは講師から里山についてのお話を聞きました。里山は、人の生活の中でどのように利用されてきたか、生活様式の変化によって、里山の環境がどのように変化しているのかを聞きました。そして、里山を守るためにはどのようにすればよいかを考えました。

次に、四日市市少年自然の家の里山に入って、常緑樹を伐採し、薪にするために 30 cm の長さになりそろえる体験をしました。

この活動を通して、子どもたちは、里山保全の大切さについて理解を深めることが出来ました。



プログラム概要

内容	・ 里山のお話 ・ 伐採作業
時間	2 ～ 3 時間
場所	四日市市少年自然の家
対象	(全て四日市市立) 羽津小学校 5 年生 82 人 海蔵小学校 5 年生 128 人 常磐小学校 5 年生 116 人 三重小学校 5 年生 89 人 泊山小学校 5 年生 95 人 三重西小学校 5 年生 73 人 三重北小学校 5 年生 51 人 中央小学校 5 年生 26 人 橋北小学校 5 年生 35 人 塩浜小学校 5 年生 32 人 橋北中学校 1 年生 42 人 塩浜中学校 1 年生 42 人 西笹川中学校 1 年生 84 人 楠中学校 1 年生 122 人
講師	・ 四日市市少年自然の家 ・ 桐生定巳氏

03

木に親しみ、木を楽しもう

～丸太切り、マイ箸作り、木の積木・楽器遊び～

津市立修成小学校、南立誠小学校、北立誠小学校

【修成小学校】



ねらい

- ・木に親しみ、木の良さを感じる
- ・地域で森林・林業に携わる人から、地域の森林・林業や木のこと、自分たちの暮らしとの関わりを聞いて、森林・林業を身近なものとして理解を深める

取組内容

子どもたちは、PTAの学年活動として、木にかかわる木工など木育体験を行いました。

小学校の体育館に設けられた、「丸太切り&コースター作り」、「マイ箸作り&滑車体験」、「木の積木&木の楽器遊び」の3つの体験コーナーを順番に回って体験しました。

丸太切りでは、ほとんどの子どもたちがノコギリを初めて使うので、講師から丸太を切る時のノコギリの使い方について説明を受けた後、丸太切りを体験し、木とふれあうことの楽しさを感じていました。

また、コースター作りや、マイ箸作りでは、木の匂いをかいだりしながら、一生懸命磨いていました。

積木など木のおもちゃ体験では、木の持つ香りや感触、音などにふれあいました。

3つの体験を終えた後、講師から県内の森林の状況や林業の仕事についてなど、森のお話を聞き、森林の役割や森林を守ることの大切さを学ぶとともに、木を使うことが森を元気にすることを学びました。

プログラム概要

内容	・丸太切り&コースター作り ・マイ箸作り ・木の積木&木の楽器遊び ・森のお話
時間	1時間35分 (PTA 学年活動)
場所	小学校体育館
対象	修成小学校 6年生 56人とその保護者 南立誠小学校 3年生 81人とその保護者 北立誠小学校 2年生 97人とその保護者
講師	森のせんせい：NPO 法人もりずむ 松阪飯南森林組合 向田恵子氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【南立誠小学校】



【北立誠小学校】



04

年輪を調べよう ～君と木と、どっちが長生き？～

四日市市立常磐西小学校



ねらい

- ・木の生長を実感するとともに、森林の大切さを知る
- ・木にふれあうことの楽しさを感じる

取組内容

四日市市立常磐西小学校では、5年生が、四日市市少年自然の家での自然観察活動や里山保全活動に取り組み、6年生では、学校林の「吉田山」での間伐など森林整備活動に取り組んでいます。また、年間を通じて、全学年が吉田山を「学習の場」、「遊びの場」として活用しています。

今年度は、新たに4年生の「総合的な学習の時間」を活用して、森林環境教育に取り組みました。授業では、木の生長を実感するため、木の年輪についての学習を行いました。

年輪の意味を知り、年輪幅を測定し、数値化しました。木の生長を「見える化」することによって、樹木の生長の様子を学び、身近なものと感じることができました。その後、ノコギリ体験をし、木のぬくもりを肌で感じ、木とふれあうことの楽しさを感じるすることができました。

プログラム概要

内容	・樹木の年輪測定 ・ノコギリ体験
時間	1時間30分×2クラスずつ2回実施 (総合的な学習の時間)
場所	小学校校庭
対象	4年生 141人
講師	森のせんせい：NPO 法人森林の風
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

05

県産材を使った木製万年カレンダー作り

津市立栗真小学校



ねらい

- ・ 森林のはたらきや木材利用の意義についての理解や関心を深める
- ・ 木工体験、ノコギリ体験を通して木の良さを実感する

取組内容

栗真小学校では、PTAの学年活動で、6年生が卒業制作として、木製の「万年カレンダー作り」に取り組みました。

はじめに、間伐の必要性や県産材を使うことの意義、間伐材を使うことが森林を元気にすることを学んだ後、子どもたちは、保護者の方といっしょに木工工作、ノコギリ体験に取り組みました。

また、木の香りに包まれながら、木製の日付作りや、月ごとに絵をかいたり、木製カレンダー作りを通して木とのふれあうことの楽しさを感じていました。

子どもたちは、森林や林業についての理解を深めることができたとともに、木製品を制作することで、木の特性や木製品の良さについて実感できました。

プログラム概要

内容	・ 森林、林業のお話 ・ 万年カレンダー作り
時間	1 時間 35 分 (PTA 学年活動)
場所	小学校木工室
対象	6 年生 10 人とその保護者
講師	森のせんせい：松阪飯南森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

06

県産材を使ったプランターカバー作り

津市立栗真小学校・一身田中学校国児分校



ねらい

- ・ 森林のはたらきや木材利用の意義についての理解や関心を深める
- ・ 木工制作を通して木の良さを実感する
- ・ 県産材を使った木製品の設計と制作を通して、郷土の森林を守ることの大切さについての意識を高める

取組内容

栗真小学校国児分校、一身田中学校国児分校では、技術科の授業で、県産材を使ったプランターカバーを制作しました。

講師からは、間伐の必要性の話があり、間伐が行われないと森林のはたらきが発揮されなくなることや、地域の木を使うことが、森林を元気にすることを学んだ後、県産材のスギを使って、プランターカバーを制作しました。

子どもたちの中には、ノコギリを初めて使う子どももいて、とまどっていましたが、講師から木の切り方の指導もあり、設計図の通り木を切っていました。

これらのことを通して、三重県産の木材の良さを実感するとともに、林業への関心を高めることができました。

プログラム概要

内容	・ 森のお話 ・ プランターカバー作り
時間	2時間45分（技術科） 1限：森のお話 2～3限：制作
場所	学校内多目的室及び木工室
対象	小学校 5～6年生4人 中学校 1年生1人
講師	森のせんせい：森林環境教育機構
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

07

林業体験学習 ～山を育てる～

津市立辰水小学校、高宮小学校、長野小学校



ねらい

- ・ 森林や林業について学び、その大切さを理解する
- ・ 地域の山林に興味を持ち、林業の仕事について理解を深める

取組内容

津市美里地域の小学校3校の5年生35人が、林業体験に取り組みました。

子どもたちは、美里水源の森で講師の美里林業研究グループから植林、保育(下刈り、間伐など)伐採までの林業の仕事についてや、スギとヒノキの葉の見分け方についてお話を伺いました。

お話を聞いた後、講師の方々の指導でノコギリを使い、丸太で玉切り体験や間伐体験に取り組みました。

その後、子どもたちは、地元の中勢森林組合による枝打ち作業を熱心に見学しました。

なお、自宅で山林をもっている児童を対象として事前に行ったアンケートでは、「おおきくなったら山の仕事をしますか?」との質問では、14人中5人が「はい」でした。

プログラム概要

内容	・ 森のお話 ・ 玉切り体験、間伐体験 ・ 枝打ち見学
時間	1 時間 30 分
場所	美里水源の森
対象	5 年生 35 人
講師	美里林業研究グループ 森のせんせい：中勢森林組合



ねらい

- ・ 木工体験を通じ、木とふれあい、親しむ機会とする
- ・ 間伐材や地域材を使うことに対する正しい理解を深める
- ・ 木製品に愛着を持つとともに長く使用できる特性を知る

取組内容

津市立誠之小学校では、学校内「なかよしホール」において、PTA学年活動でマイ箸作りを行いました。

はじめに、講師から、副読本を活用して、森のお話があり、森林のはたらきや大切さ、緑の循環についての理解を深め、地域の木材を使うことが、地域の森林を元気にすることや森林を守ることの大切さを学びました。

その後、講師の指導で箸作りを行いました。

箸作りでは、ヒノキの香りに包まれながら一生懸命に磨き、バーニングペンでの絵付け、色塗りをを行い完成しました。

体験を通じて、木の温もりを肌で感じ、木とふれあうことの楽しさや、木製品への愛着、地域材を使うことの理解が育まれる良い機会となりました。

プログラム概要

内容	・ 副読本を使った森のお話 ・ マイ箸作り
時間	1 時間 35 分 (PTA 学年活動)
場所	小学校内なかよしホール
対象	4 年生 62 人とその保護者
講師	森のせんせい：NPO 法人海虹路
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・身近な校庭の木やその周辺の森を観察することにより、自然の大切さを実感する

取組内容

津市立大三小学校では、4年生の理科の教科書に、年間を通して生き物を観察する単元があるので、小学校校庭及び隣接する森の樹木の観察を通して、子どもたちが自然の豊かさや不思議さ、おもしろさを感じ、自然の大切さに気づくことをねらいとして樹木観察を行いました。

活動は、子どもたち一人ひとりが、校庭の木々の中から「私の木」として一番気に入った木をそれぞれ一本選んで観察し、樹木カードに観察結果を書きました。

その選んだ木を講師といっしょに、木にふれながら、皆で見て回り、樹種や木の特徴などを教わりました。また、光合成や、陰樹・陽樹の違いなども覚えました。

子どもたちは、校庭の身近な木に親しみながら、自然の大切さを学びました。

プログラム概要

内容	校庭の樹木観察
時間	1時間35分（理科）
場所	小学校校庭及び隣接する森林
対象	4年生 21人
講師	森のせんせい：末良学氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

10

樹木観察 ～校庭にある樹木を調査しよう～

松阪市立港小学校



ねらい

- ・身近な校庭の木を観察することにより、自然の大切さを実感する
- ・木に対して親近感、愛着や興味を持ち木への理解を深める

取組内容

松阪市立港小学校では、4年生の理科の教科書に年間を通して生き物を観察する单元があることから、小学校校庭の樹木の調査を通して、子どもたちが自然の豊かさや不思議さ、おもしろさを感じ、自然の大切さに気づくことをねらいとした樹木調査を行いました。

授業では、樹木医である講師に校庭内の木の樹種などを調査してもらった後、児童一人ひとりが、校庭の木々の中から一番気に入った木を「調査する木」として一本選び、卒業するまで調査、観察することとしました。

その選んだ木にふれながら皆で見て回り、講師から樹種や木の特徴などを教わり後日、木に名札を付けることとしました。

授業では、光合成も学習し、校庭の身近な木に親しみながら、自然の大切さを学びました。

また、物差しと3mに切った定尺のタケを使って、目測での簡易な樹高測定の方法も教わりました。子どもたちは、身近な樹木に関心を持ち、楽しみながら活動に取り組みました。

プログラム概要

内容	校庭の樹木観察
時間	1時間30分（理科）
場所	小学校校庭
対象	4年生53人
講師	森のせんせい：末良学氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

ウッドピア松阪で木にふれる

～木はすごい。木にふれるって楽しい～

ほとどの ほとどの
松阪市立機殿幼稚園、機殿小学校



ねらい

- ・ ウッドピア松阪の施設見学や、木工体験を通じて木材について学ぶ
- ・ 森林と木材利用のつながりを理解し、林業の大切さや働くことの意義を知る

取組内容

子どもたちは、ウッドピア松阪を訪ね、原木市場や加工施設の見学や、木工体験をしました。

原木市場では、その広さと大きな丸太がたくさんあることにびっくりしていました。内装材を作っている工場では、加工前の木の板ときれいな床板とを見比べて、つるつるできれいと手触りを楽しみました。チップ工場では、勢いよくチップになって出てくる様子を見て、チップにさわってみました。

木工工作の時間では、木の板にキリで穴をあけたり、木の小さな部品に色を付け、板に貼ったりして楽しみました。

木は、やわらかくて加工がしやすいことや、簡単に色を付けたり文字が書けることを実感しました。

森のお話では、森林や木材のクイズをして、木が使われることで森林がよくなっていくことや、森林が持っているいろいろな機能が自分たちの生活に役立っていることなどを学びました。

プログラム概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原木市場見学 ・ 木材加工施設、チップ製造施設見学 ・ 木工工作 ・ 森のお話、森のクイズ
時間	見学：1 時間 工作：1 時間 20 分 森のお話・クイズ：1 時間
場所	ウッドピア松阪
対象	園児 4 人 1～2 年生 19 人 3～5 年生 21 人
講師	顔の見える松阪の家づくり推進協議会：久保敦子氏
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「森林環境学習事業」

12

学校林生き生き体験学習

松阪市立大河内おかわち小学校



ねらい

- ・ 樹木や植物に親しみ、森林が環境に果たす役割を学ぶ
- ・ 枝払いや皮むき体験をすることで、林業の大切さや働くことの意義を知る

取組内容

松阪市立大河内小学校では、6年生の子どもたちが、学校林を活用して、森林のはたらきを学びました。

事前学習では、教室で講師の方から森林の役割、樹木の増やし方、樹木の分類などについて教えてもらいました。その後、講師の指導のもと、ノコギリによる枝打ち、皮むきなどの演習を学校林で体験をしました。その後、講師の指導により、自然に親しむレクリエーションゲームを行いました。また、学校林で皮むきをしたヒノキの樹皮を使った草木染めを行いました。

事前学習で森林が環境に果たす役割などを学び、その後、林業体験や、ネイチャーゲームなどで樹木に親しむことによって、林業や自然を守ることの大切さを理解し、また、働くことの意義を知ることができました。

プログラム概要

内容	・ 事前学習 ・ 学校林演習 ・ 草木染め実習
時間	事前学習 : 1 時間 学校林演習 : 5 時間 草木染め実習 : 2 時間
場所	小学校教室及び学校林
対象	6 年生 12 人
講師	森のせんせい：松阪林業研究会 奥川次郎氏
備考	公益社団法人国土緑化推進機構による「学校林を活用した森林環境教育促進事業」

森林のはたらきについて考えよう！

～不要木を活用したコースター作り体験～

松阪市立射和いざわ小学校



ねらい

- ・自分たちの住んでいる地域の森林・林業の現状についてや、森林のはたらきや大切さを知る
- ・県産材を使うことの大切さ、意義を知る
- ・学校の裏山から切り出された不要木を使ってコースター作りを行い、木の良さを理解する

取組内容

松阪市では、平成22年度から搬出間伐により生産された木材を利用して市内の小・中学校へ木製机・椅子を導入して、人と環境にやさしい素材である木材を使った製品の普及に努め、これからの森林環境教育に活かしています。

射和小学校では、森のお話で、地元の松阪飯南森林組合から、間伐を進め、地域の森林から生産された木材を使うことが地域の活性化につながり、森林も元気になることを学びました。

また、体験学習では、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、学校の裏山を整備するため、搬出された「カシ」、「サクラ」、「クス」などの不要木を輪切りにした木材を皆でサンドペーパーで磨き、コースターを作りました。

子どもたちが、木製の机、椅子などの温もり、柔らかさ、明るさといった木の優れた性質を実感するとともに、地域材を使うことに対する正しい理解を育む良い機会となりました。

プログラム概要

内容	・森のお話 ・木のコースター作り
時間	45分 × 2学年で実施
場所	小学校教室
対象	5年生 31人 6年生 30人
講師	森のせんせい：松阪飯南森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

14

上流から木にふれるまで

～森林や木はすごい。木にふれるって楽しい～

松阪市立中原小学校



ねらい

- ・ 森林に囲まれたダムの機能、森林が環境に果たす役割を学ぶ
- ・ 森の恵み、キノコの生態や栽培の仕方を学び、林業の大切さや働くことの意義を知る
- ・ ウッドピア松阪の施設見学や木工体験を通じて木材について学ぶ

取組内容

松阪市立中原小学校では、5年生を対象に1泊2日キャンプを兼ねて森林環境学習を行いました。

1日目は、蓮ダムとハタケシメジ栽培所を見学し、木工工作进行了。ハタケシメジ栽培所では、人工栽培することで、計画的にキノコが生産でき、安定的に収入が得られることなどを学びました。丸太を切るノコギリ体験と木工工作では、ラック作りをしました。子どもたちは、あまり使ったことのない道具に悪戦苦闘しながらも楽しそうに作品を作っていました。

2日目は、原木市場、木材加工施設、チップ工場を見学しました。木材加工施設では、床板などの内装材を作っているところで、原料の木の板と床板の製品を見比べて、美しい仕上がりに感心しました。チップ工場では、大きな機械から勢いよく飛び出してくるチップを見たり、保管されているチップにさわったりしました。

学習の時間では、森林のはたらきや、木を使うことによって森林が良くなることなどを勉強して、2日間の森林環境学習が終わりました。

プログラム概要

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム見学 ・ ハタケシメジ栽培所見学 ・ 木工工作 ・ 木材関連施設見学 ・ 森林環境学習
時間	見学：3時間 10分 木工工作：1時間 20分 森林環境学習：1時間
場所	<small>はちす</small> 蓮ダム、松阪飯南森林組合、 ウッドピア松阪
対象	5年生 21人
講師	蓮ダム職員 森のせんせい：松阪飯南森林組合 顔の見える松阪の家づくり推進 協議会：久保敦子氏
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「森林環境学習事業」

森林のはたらきや木材利用について考えよう！

～マイ箸作り体験～

多気町立外城田ときだ小学校



ねらい

- ・ 森林のはたらきや、木を使うことの意義について関心を深める
- ・ 県産材を使うことの大切さ、意義を知る
- ・ 県産材を使ってマイ箸作りを行い、木の良さを感じ木に親しむ

取組内容

多気町立外城田小学校では、親子ふれあい教室の時間を活用して、県産材を材料に小刀とサンドペーパーを使ってマイ箸作りをしました。

木工体験学習では、初めて小刀を扱う児童もいましたが、保護者や講師の手伝いもあり、木の温もりを肌で感じ、木とふれあうことの楽しさを感じながら、マイ箸を制作しました。

森のお話では、森林のはたらきや大切さ、木を使うことが森林を元気にすることを学びました。

プログラム概要

内容	・ 森のお話 ・ マイ箸作り
時間	1 時間 45 分
場所	小学校体育館
対象	1 ～ 6 年生 64 人とその保護者
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・学校近くの山で林業体験を行い、健全な森林の育成を通して環境へのアプローチを考える
- ・体験活動を通して自然について知り、木材の流通と使用など将来の環境保全活動につながる素地を養う

取組内容

【山の見学】

普段、あまり山に入る経験のない子どもたちですが、事前学習で木について調べるなど森林への興味や関心が高まっていました。林業体験では、自然林と人工林を見比べたり、人工林の中でも手入れの仕方ですぐ木が変わってくることを学習しました。

子どもたちは、自然の中で得られる「気づき」や「学び」の重要性を感じていました。

【間伐体験】

林業の仕事の中でも特に「間伐」という作業の意味や方法を体験を通じ学ぶとともに、自然と人との関わりや、間伐により変化する自然環境について考えました。

子どもたちはプロの技術を実際に見て、木を伐る作業や皮を剥く作業を行いました。プロの技を目の当たりにすることで、道具を使いこなすことの難しさ、仕事の大変さなどを実感し、林業の意義を感じていました。

また、日陰に育つヒノキは、水上げが悪く、皮が剥ぎにくくなることなどに気づき、講師の宮川森林組合に質問していました。危険で大変な作業ですが、大台町の産業について学ぶ機会となりました。



【搬出作業】

子どもたちは、間伐し、乾燥させた木を搬出する過程を体験しました。木を伐ってから山で寝かせて乾燥させることで木が軽くなることから、木に水分を多く含んでいることを実感していました。

また、森林組合の方から、市場に出す際に気をつけるのは、買い手が欲しがる商品にすることだと教えられ、何に使われるのかなどを考えながら長さを切り揃える玉切り作業を体験しました。

森に生えていた木が木材として商品になるという意識も生まれ、自分たちが搬出した木材がいくらで売れるのか、次回の市場での木材販売を楽しみにしていました。

【市場での木材販売】

今回の市には、小学校の子どもたちの活動を応援しようと、地域林業家の方に木材を多く出していただき、競りが盛大に開催されました。

子どもたちが出荷した間伐材は足場丸太、杭材、短材の3種類の商品として買い手がつき、木材で収入を得ることができました。

その後、市場の方や林業家の方に木材の流通のしくみや木材の用途などを教えていただき、子どもたちは森の木がどのように流通し、どのように使われるのかを学びました。

この4回の授業のまとめとして、地元の大台町の自然や産業にふれ、地域の人や自然との関わりが深まる良い機会となりました。

また、実際に木を切り、市場で売るという一連の流れを体験し、地元の産業である林業について理解が深まり、将来は林業家になりたいという子どもたちもおり、林業を考える良い機会となりました。



プログラム概要

内容	・ 山の見学 ・ 間伐体験 ・ 搬出作業 ・ 市場見学
時間	1校あたり ・ 山の見学 1時間 45分 ・ 間伐体験 1時間 45分 ・ 搬出作業 1時間 45分 ・ 市場見学 1時間 45分
場所	大台町内山林及び丸天木材市場
対象	三瀬谷小学校 4年生 40人 宮川小学校 4年生 20人
講師	森のせんせい：NP0 法人大杉谷自然学校、宮川森林組合 森下林業 武内林業
備考	大台町小学生が創る宮川未来の森（間伐体験）事業

マツの間伐体験 ～今一色海岸の再生に向けた活動～

伊勢市立今一色いまいしき小学校



ねらい

- ・今一色海岸のマツ林を再生する活動により、地域の一員として住みよいまちにしようとする態度を育てる

取組内容

伊勢市立今一色小学校では、4年生13名が今一色海岸でマツの間伐を実施しました。

本校では、病害虫などの影響で消失したマツ林を再生するため、平成21年度より、今一色区のみなさんとともに、マツの植樹活動に取り組んできました。

植樹したマツが順調に生育し大きくなったため、この日の間伐に至りました。

当日は、講師から海岸林の役割や間伐の必要性などの話を聞いた後、手ノコによりマツを伐採しました。

この活動を通して、海岸林の役割が理解でき、マツ林の再生にも役立てて良かったと感じました。

プログラム概要

内容	海岸マツ林の間伐体験
時間	1時間
場所	伊勢市二見町今一色の海岸林
対象	4年生13人
講師	三重県伊勢農林水産事務所 職員

18

樹木観察 ～小学校にある樹木について学ぼう！～

と き だ
玉城町立外城田小学校



ねらい

- ・身近な校庭の木を観察することにより、自然の大切さを実感する
- ・木に対して親近感、愛着や興味を持ち木への理解を深める

取組内容

玉城町立外城田小学校では、4年生の理科の教科書に、年間を通して生き物を観察する单元があるので、小学校校庭の樹木の調査を通して、子どもたちに自然の豊かさや不思議さ、おもしろさを感じ、自然の大切さに気づくことをねらいとした樹木調査を行いました。

授業では、児童一人ひとりが、校庭内の樹木について、「小学校校庭内には、何種類の樹木があるかな？」の予想や、「小学校にある樹木の名前を知ろう！」などの課題を設け、講師といっしょに木にふれながら、みんなで校庭内にある樹木の樹種やその木の特徴などを教わりました。

また、「受粉」についても学び、子どもたちは、身近な樹木に関心を持ち、楽しみながら調査活動に取り組みました。

プログラム概要

内容	校庭の樹木観察
時間	1時間30分（理科）
場所	小学校校庭
対象	4年生36人
講師	森のせんせい：末良学氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

地域の産業「シイタケ栽培」を知ろう

～シイタケの種菌入れの体験を通して～

19

大紀町立大紀小学校



ねらい

- ・地域の産業について理解を深める
- ・シイタケ栽培の見学を通して、栽培方法を学んだり、食への関心を高めたりする

取組内容

大紀町立大紀小学校では、3年生と4年生の子どもたちが、総合的な学習の時間の中で地元の産業であるシイタケ栽培について学ぼうと、講師が営む「キノコランド」を訪れました。

はじめに、講師から、シイタケの栽培方法についての話を聞きました。

キノコランドの原木栽培のクヌギは、講師が少しずつ植え続け、キノコランドのほだ木の大半を自ら育てています。

また、使い終えたほだ木は、ハウス栽培の燃料として、その灰は、原木のクヌギの肥料として利用され、資源循環型の栽培を行っています。

その後、シイタケの種菌入れを体験しました。

子どもたちは、金づちを片手に、楽しそうに種菌をクヌギの原木に打ち込んでいました。

最後に、ハウスの中で育てているシイタケを見学しました。

子どもたちは、実際に見たり、聞いたり、体験したりすることで、人と自然に優しい生産をする苦労や栽培の工夫を知ることができるとともに、目標を持つことや物を大切にすることの大切さを学ぶことができました。

プログラム概要

内容	・シイタケの栽培方法などのお話 ・シイタケの種菌打ち
時間	1時間
場所	キノコランド（大紀町）
対象	3年生15人 4年生15人
講師	森のせんせい：藤原善一氏





上：上野森林公園内の里山散策とどんぐり拾い。
 右上：どんぐりを台紙に張りつけ、名前を入れて、「どんぐり図鑑」の完成。
 右下：ネジキの丸い板を磨き、表面を仕上げ、紐を通して、ペンダントの完成。



ねらい

- ・ 森の楽しさや森のしくみ、はたらきなど森の大切さに気付く
- ・ ネイチャークラフト作りを通して、自然素材を活かした物づくりが出来ること、楽しさ、素材感などを体験する

取組内容

伊賀市立神戸小学校では、1年生から4年生の子どもたちが、三重県上野森林公園において、どんぐりを拾いながら、里山を散策し、自然観察を行いました。

その後、拾ってきたどんぐりと学校から持ってきたどんぐりをグルーガンで台紙に張り、名前を入れて「どんぐり図鑑」を完成させました。

自然観察を通して、森に関心を持たなかった子どもたちが、自然のおもしろさに気づき植物や森林を大切にしようとする気持ちが芽生えました。

ネイチャークラフトでは、ネジキのペンダントを作り、幹がねじれた「ネジキ」という里山の木を通して、これからの里山の大切さを理解することが出来ました。

プログラム概要

内容	・ 里山散策(公園内の植物などの観察) ・ 「どんぐり図鑑」作り ・ ネイチャークラフト (ネジキのペンダント作り)
時間	5時間
場所	三重県上野森林公園
対象	1～4年生40人
講師	森のせんせい：三重県上野森林公園
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

学校林わくわくプロジェクト

～間伐・製材所見学、丸太切り・木工体験～

こもはら
名張市立薦原小学校



ねらい

- ・学校林に対して興味を持ち、森林内での体験学習により、健全な森林の育成につなげる
- ・森林の良さを体感するとともに、木工体験を通じ木材の利用について考える

取組内容

名張市立薦原小学校では、5年生の社会科の産業学習で林業を学習しています。

今年は、長い間利用されていなかった学校林が整備されたことから、学校林内で間伐見学、丸太切り体験するとともに、学校林から搬出された木を製材所で加工してもらい、木工体験を行いました。

【学校林と間伐の見学】

学校林では、講師から針葉樹と広葉樹の樹種の違いや、森林の土と運動場の土との特徴の違いについて、講師と一緒に考えました。

森林の土は、スポンジのように「ふかふか」で動植物のすみかになることや土に栄養や水がたくさん含まれているので、木がよく育つことを学びました。

また、間伐の見学では、地域の方々（薦原市民センター）の間伐作業を見学し、間伐は、木を大きく成長させるために木の本数を減らす作業であることや、間伐することにより、森林のはたらきを高めることを教えてもらいました。



【丸太切り体験、森のお話】

子どもたちは、目の前で切り倒された丸太を地元の方々に引く時に力を入れるなど丸太切りのコツを教わりながら、はじめは、苦戦をしていましたが一生懸命、丸太切りに挑戦しました。

山に生えていた木を倒し、倒された木を20cm位にノコギリで切るという初めての作業を体験・体感することができました。

子どもたちが丸太切りした木は、ブックエンドとして教室に配る予定で、活動を通して、木材の利用について考える良い機会となりました。

その後、学校林から教室にもどり、講師から森林環境教育副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を使って、森林のはたらきや大切さ、緑の循環について学びました。

また、次回の製材所見学を楽しみにしていました。

【製材所見学】

子どもたちは、地元の製材所を訪問し、太く、大きな木を製材する様子や木材をチップ化する様子を見学し、山に生えていた木を木材や製品、商品に加工する過程を学びました。

また、製材所では、加工された木材の利用や製材された木材の見分け方、林業の担い手不足など林業の現状・問題点などを教えてもらい、林業の学習に役立ちました。

【木工体験】

小学校では、5年生で図工で糸鋸を使った工作があります。

子どもたちは、製材所で学校林から搬出された木を加工してもらい、木工体験をしました。

糸鋸でおもちゃなどを制作している木工作家を講師に招き、安全な糸鋸の使用方法を教わった後、一人ひとりがアイデアを活かしたメモスタンドを完成させました。木工体験を通じ、木とふれあうことの楽しさを感じる良い機会となりました。



プログラム概要

内容	・ 学校林と間伐の見学 ・ 丸太切り体験 ・ 森のお話 ・ 製材所見学 ・ 木工体験
時間	学校林、間伐の見学、丸太切り体験 2時間 森のお話 1時間 製材所見学 2時間 木工体験 3時間
場所	薦原小学校教室及び学校林
対象	5年生17人
講師	森のせんせい：坂上優子氏 菊岡哲氏
備考	公益社団法人国土緑化推進機構による 「学校林を活用した森林環境教育促進事業」



ねらい

- ・尾鷲市の特産品である尾鷲ヒノキやスギなどの木材の流通の仕組みを知る
- ・尾鷲の木材の良さ、森林と人々の生活や環境との関係について学ぶ

取組内容

尾鷲木材市場では、まず尾鷲ヒノキがなぜ有名になったのかといった尾鷲ヒノキの歴史と尾鷲木材市場への木材の流通について学習しました。

次に実際の競りの様子を見学し、「競り人」（競りをする人）の体験をしました。

子どもたちは、自分たちの校舎や机などに使われている尾鷲ヒノキがどのように製品に加工され、商品となるのか、そして尾鷲の誇る林業を守り、発展させるための苦労や努力を知る機会となりました。

プログラム概要

内容	・原木市場見学 ・競り体験 ・森林環境学習
時間	1時間30分
場所	尾鷲木材市場
対象	5年生14人
講師	尾鷲木材市場協同組合

尾鷲ヒノキを使ったアオリイカ産卵床作り

～林業と漁業の体験学習～

尾鷲市立宮之上小学校、三木小学校



ねらい

- ・尾鷲市の主要産業である林業と漁業への理解と関心を同時に深める
- ・木にふれあう機会を設けることで、地元産材の「尾鷲ヒノキ」に愛着を持つ
- ・間伐材を利用することで、森林整備の重要性を知る

取組内容

尾鷲市では、古くから林業と漁業が盛んであり、子どもたちが住んでいる街のことをより知ってもらう良い機会がありました。

そこで、尾鷲ヒノキの間伐材を活用した産卵床作り、産卵床の設置までを子どもたち自身で行うことで、楽しみながら漁業と林業にふれることができる貴重な体験ができました。

間伐材をアオリイカの産卵床とすることで、なぜ間伐する必要があるのか、森林整備をしなくなるとどうなるのかを教えていただいたことで、森林整備の重要性などを学ぶことができました。

また、事前学習として林業と漁業について教えていただいた後に実体験をすることで、子どもたちも楽しみながら生活と自然とのつながりを理解することができました。

プログラム概要

内容	・林業と漁業の話 ・間伐材を活用した産卵床作り
時間	4時間
場所	尾鷲市内
対象	宮之上小学校 5年生14人 三木小学校 1～6年生21人
講師	尾鷲市木のまち推進課 尾鷲市水産商工食のまち課



ねらい

- ・ 植樹体験をすることにより、地域の林業や森林について学ぶ
- ・ 自然に親しむ子どもを育成する

取組内容

紀北町は、尾鷲ヒノキの産地であり、古くから林業の盛んな町であることから、子どもたちは、初めに地域林業の歴史や特徴、さらに、森林がみんなの生活に役立っていることなどのお話を聞いて森林の大切さを学びました。

植樹活動では、ヒノキ、コウゾ、ミツマタの苗木を植えました。指導者の方に植え方を教えてもらった後、山の斜面に植樹しました。

子どもたちは最初は、不安そうにぎこちない動きでしたが、慣れてくると一生懸命に穴を掘って、楽しそうに植えることができました。

プログラム概要

内容	・ 地域の林業のお話 ・ 森林のお話 ・ 植樹活動
時間	2時間30分
場所	紀北町引本浦字網代地内の町有林
対象	3年生4人 4年生8人
講師	森林組合おわせ 紀北町職員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した紀北町森林環境教育活動



ねらい

- ・ 県内の森林・林業の現状や森林のはたらき、大切さを知る
- ・ 県産材を使うことの意義を知る
- ・ 県産材を使ってマイ箸作りを行い、木の良さを感じ、木に親しむ

取組内容

津市内の中学校の技術科では、安全・安心な生活という視点を取り入れた授業を行っています。

例えば、生産者としての社会的責任(CSR)や製作材料に地元の木材を利用することが、地域活性化や森林の再生につながることを学んだ上で、制作を行っています。

津市立一身田中学校では、昨年につき、1年生の生徒を対象に行いました。

講師から県内の森林・林業の話聞いた後、県産材のスギを材料に、小刀とサンドペーパーを使いマイ箸作りをしました。

はじめに、座学を行いました。森林の有する地球温暖化防止や土砂崩壊防止などの公益的機能についての話を聞き、森林の役割や森林を守ることの大切さについて学びました。特に「人工林では、間伐が必要」であり、県産材を使うことが森を元気にすることを学びました。

体験学習のマイ箸作りでは、慣れない小刀の扱いに苦戦しましたが、真剣に取り組み、木の香り、木の感触を感じながら、マイ箸を制作できました。

プログラム概要

内容	・ 森のお話 ・ マイ箸作り
時間	5時間 (技術科1限, 6クラスで実施) 1クラスあたり50分
場所	中学校木工室
対象	1年生186人
講師	森のせんせい：松阪飯南森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・ 学習活動の一貫として、社会で活躍されている、その職業のプロの方々からお話を聞いたり、ものづくりを体験したりすることで働くことの意義や自分の将来の生き方について考える
- ・ 地域の産業について理解を深める

取組内容

はじめに、子どもたちは講師の三重県建具工業協同組合の方のお話を聞き、ミニ衝立作りを行いました。

木材の種類や自分たちの身近なところに木材がどのような使われ方をしているのかについてのお話や、建具職人さんの仕事内容についてなどのお話を聞きました。また、職人になるために夢や目標を持って修行に取り組んでこられた体験談などを聞かせていただきました。

ミニ衝立作りでは、二人ペアになって木材を組み立てていきました。まっすぐ隙間ができないように組み立てることに苦戦する子どももいましたが、制作に夢中になって取り組むことができました。

プログラム概要

内容	・ 木のお話 ・ ミニ衝立作り
時間	2時間(総合的な学習の時間)
場所	中学校木工室
対象	3年生169人
講師	三重県建具工業協同組合



ねらい

- ・地域の樹木・竹に親しみ、その理解を深める
- ・自然のものを使って、造ることの楽しさを感じるとともに自然保護の重要性を理解する

取組内容

白塚幼稚園の子どもたちと保護者の皆さんが、講師の指導で、地域のタケを使ったスタードーム作りを行いました。

その後、完成したドームの中で、里山の竹林は手入れされずに荒廃していることや、拡大する竹やぶについてのお話を聞きました。

タケを有効活用することが里山の適正な管理につながることや自然の材料にふれ、その特性を知ることができました。

また、スタードーム作りは、災害発生時に仮住まいとしても活用が可能で、子どもたちのサバイバル能力を高める効果もあることも教わりました。

プログラム概要

内容	・里山の適正管理のお話 ・スタードーム作り
時間	2時間
場所	幼稚園多目的室
対象	園児6人と保護者
講師	森のせんせい：秘密基地研究会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・ 県内の林業についての理解を深め、山の仕事について考える機会を提供する
- ・ 木にふれることにより木の良さを感じ、県産材活用拡大の啓発活動を行う

取組内容

桑名市内の2つの放課後児童クラブでは、会場内に3つのテーマで体験コーナーを設けて、学習することにより、体験を通じて、木の温もりを肌で感じ、木とのふれあうことの楽しさを感じるとともに森林を守ることの大切さについて学習しました。

「学ぼう」木と森のクイズでは、クイズを通して、林業、木や森について、学びました。

「遊ぼう」では、小学1年生から6年生の子どもたちが木製ボールプール「もりぼーる」や積木、木のおもちゃにふれて、木の香りなどを楽しみました。

「作ろう」の丸太切り体験では、森のせんせいからノコギリの使い方を教わり、丸太切りの後、コースター作りを行いました。

また、ノコギリを使うのが初めての子どもたちも多く、切るのが難しかったようです。

プログラム概要

内容	・ 木と森のクイズ ・ 丸太切りとコースター作り
時間	2時間
場所	長島中部学童保育所レインボー 放課後児童クラブレインボー駅前
対象	長島中部学童保育所 小学生40人 放課後児童クラブ 小学生23人
講師	森のせんせい：鈴鹿森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・ LEAF（森にあるものを使い、楽しく遊びながら学ぶプログラム）で森のことを学ぶ
- ・ 木にふれることにより木の良さを感じ、県産材活用拡大の啓発活動を行う

取組内容

いなべ市の放課後児童クラブでは、小学1年生から5年生を対象にLEAF体験とマイ箸作りを行いました。

「LEAF体験」では、教室周辺の森林にある木の名前とその木の使い方を学びました。

「森を楽しもう」では、火おこし体験を行い、緊急時の防災対策として木の枝など森の恵みを活用したサバイバル術を学びました。

また、「マイ箸作り」では、木工工作、ノコギリ体験を通して木とのふれあうことの楽しさを感じていました。

プログラム概要

内容	・ LEAFによる森についての学習 と災害時の自活行動の学習 ・ マイ箸作り
時間	3時間
場所	なかよしハッピーキッズ教室及び 校舎周辺
対象	小学生37人
講師	森のせんせい：松本尚子氏 西井愛氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる 森林環境教育・木育出前授業



ねらい

- ・ 県内の林業についての理解を深め、山の仕事について考える機会を提供する
- ・ 木にふれることにより木の良さを感じ、県産材活用拡大の啓発活動を行う

取組内容

川越町つばめ児童館の幼児、小学生たちは、児童館に3つの体験コーナーを設け、体験を通じて木育を学びました。

「遊ぼう」では、子どもたち123人が木製ボールプール「もりぼーる」や積木、おもちゃにふれてもらい、木の香りなどを楽しみました。

「作ろう」では、講師からノコギリの使い方を教わり、丸太切りを行った後、コースター作りを行いました。ノコギリを使うことが初めての子どももいたため、丸太切りに時間がかかり、苦戦をしていました。

「学ぼう」では、木と森のクイズを通じて、森林・林業について学び、森林のはたらきや役割、森林を守る大切さを理解しました。

プログラム概要

内容	・ 木と森のクイズ ・ 丸太切りとコースター作り
時間	2時間
場所	児童館
対象	幼児・小学生123人とその保護者
講師	森のせんせい：裏川照雄氏 金津順一氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

森林環境教育・木育のサポート

学校などで取り込まれる森林環境教育や木育の活動にかかるサポートを行います。

◆主なサポート内容

- 授業を行うにあたっての相談対応
- 授業の組立やプログラム作成のお手伝い
- 指導者「森のせんせい」紹介

「出前授業」

これから森林環境教育や木育を始めたいという方を対象として、出前授業を実施しています。
はじめの一歩にご活用ください。



指導者の育成

各種講座を通じて、森林環境教育・木育の指導者の養成や、「森のせんせい」のスキルアップを図ります。

◆講座の内容

- 「森林環境教育指導者養成講座」の開催
- 「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- 教員を対象とした
「学校教職員森林環境教育指導者養成講座」の開催
- 「木育インストラクター養成講座」の開催

森づくり活動のバックアップ

森づくり活動団体や、これから森づくりを始めたい方を対象に、技術力の向上を図る講座を行います。

◆講習の内容

- 「森づくり活動初心者講習」の開催
- 「森づくり活動スキルアップ講習」の開催
- 刈払機、チェーンソー安全衛生講習の開催

みえ森づくりサポートセンター

森づくりのつながり

森のせんせいのネットワーク構築や座談会の開催、森林環境教育や木育、森づくり活動を行う団体との連携を行います。

物品や資機材の貸出

木育に活用できる遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

◆貸出物品の一例

- 三重の木のボールプール「もりぼーる」
- ミエトイ・キッズスペース ● 各種測量用具
- ヘルメット、チャップスなどの安全装備

イベントの開催

広く森林環境教育・木育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

◆イベントの一例

- ミエトイ・キャラバン
- 毎年秋に開催する「森の学校」
- 子ども写真教室 ● みえの森フォトコンテスト

「ミエトイ・キャラバン」

木育を多くの方に体験いただくために、三重の木を使った木製遊具と一緒に「ミエトイ・キャラバン」を行っています。
スケジュールはホームページをご覧ください。





【発行】 三重県農林水産部 みどり共生推進課

【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

三重県津市白山町二本木 3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。